今月のことば　　令和6年（2024）2月　<No.210>

無 量 寿 の 命

令和６年１月２０日（土）・２１日（日）の二日間にわたって、真光寺・新納骨堂の落慶／納骨法要をお勤めさせていただきました。新納骨堂の建設に際しては、ご門徒の皆様方のひとかたならぬご理解とご協力をいただき、この日を迎えることができました。改めて深く御礼申し上げます。

新納骨堂入口に掲げられた**「誓願度（せいがんど）」**の扁額。阿弥陀様が私たちを必ずお浄土に渡してくださるという、願いと誓いを立ててくださったことを表す言葉です。旧第一納骨堂に６０年間掲げられていたものをきれいに化粧直ししました。

さて、ここでいう「私たちをお浄土に渡してくださる」とは、**「私たちを仏と成らしめる（成仏させる・真実の覚りに到らせる）」**ということです。

『誓願の不思議 ～歎異抄第一条～』大峯顕 著　より

この世で死ぬことは命そのものが消えることだと思っている人が多いのですが、信心の人の命は消えません。仏になるだけです。この個体の命が、仏という形の命になるということです。個体的形式以上の命、「**無量寿**」（限りなきいのち；住職註）という形式の命のなることを成仏というのです。

無量寿というのはたんに死なない命というだけのことではありません。**すべての命というものに対する共感を持てるような、そういう命ということです。**すべての生き物と自分は同じだという、そういう平等の自覚というものがはっきり持てるような、そういう命、それが無量寿という仏の命なんです。

阿弥陀様は**「無量寿の命（平等の命）に生まれてきてくれよ」**と、誓願を立てられました。しかし、この娑婆世界では「自分の命がいちばん」という、真逆の歩みしかできない私たちです。

親鸞聖人は次のようにおっしゃいました。

自分の力で仏に成ろうとする者においては、すべてのものをあわれみ、いとおしみ、はぐくもうとするが、すべて思いのままに救いとげることはきわめて難しい。
阿弥陀様に救われ仏と成っていく者においては、念仏して浄土へ参り、無量寿の命として、思いのままにすべての者を救うのである。　（『歎異抄 第4条』住職意訳）

お浄土に参られた大切な方々も、苦しみや悩みを抱える私たちに共感してくださる仏（無量寿の命）となられています。納骨堂にお参りの際は、ぜひそのことに思いを致しながら、手を合わせてください。

慧日山 真光寺